

東日本大震災から10年 やってくる大震災に 備える

平成23年3月11日、17時49分。
津波により浸水する松葉町通り

東日本大震災を振り返る

平成23年3月11日(金)午後2時46分、東北地方三陸沖を震源とするマグニチュード9・0、震度7の国内観測史上最大規模の地震が発生しました。

この地震により、東北地方を中心とした東日本に大津波が襲い、震災関連死を含めると死者・行方不明者は2万人を超え、甚大な被害をもたらしました。本町でも、震度3の長い揺れを観測し、地震の揺れによる被害はなかったものの、津波による被害は多数確認され、その後の住民生活や漁業活動に大きな影響を与えました。

ました。

当日の地震発生後、町は、札幌管区気象台からの大津波警報等の発表を受け、直ちに『厚岸町災害対策本部』を設置しました。防災行政無線により、沿岸地区の皆さんに避難勧告を発令し、直ちに高台へ避難するよう周知するとともに、各避難場所へ職員を配置しました。この時の避難勧告の発令対象は、16地区、2500世帯、8000人となりました。

地震発生後の約1時間後、津波は本町の沿岸部に到達し、最大2・7㍎の高さを記録するとともに、湖南、湖北地区の市街地が冠水しました。

各避難場所では、国道や道道などの主要な幹線道路において、交通規制が行われていたこともあり、次々と避難者が避難場所に押し寄せました。

避難勧告は、津波警報が解除される地震発生翌日の12日の夜まで継続し、避難者数は最大で約1千人となりました。

津波の被害状況としては、幸いにして人的被害はありませんでしたが、住家に関する被害は、湖南、湖北市街地を中心に200戸以上で、床上、床下浸水の被害を受けました。このほか、商工業に関する被害は工場、倉庫、設備等の損壊で、被害額は2・4億円となりました。また、水産業に関する被害は、漁船の流出・損壊や漁港施設の損壊、カキ、アサリ、コンブなどの水産製品の流出で大きな被害を受け、その被害額は28・7億円に上りました。

周囲から急いで離れるなど、その時にいる場所に合った行動をとりましょう。

特に、海岸近くにいるときに、強い揺れを感じたり、津波警報・津波注意報を聞いたりしたときは、すぐにその場所から離れ、高台などに避難することが大切です。

津波ハザードマップなどによって指定された避難場所であっても、津波は予想を超えて襲ってくる場合があります。津波からの避難は『より早く、より高いところへ』逃げるのが大原則です。

【避難への備え】

大災害が発生した場合、電気やガス、水道、通信などのライフラインが停止する可能性があります。このため、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。

また、自宅が被災したときは、安全な場所に避難し、そこで避難生活を送ることになります。避難所生活に必要なもの(非常用持ち出し品)をリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように備えておくことも大切です。

このほか、普段から家庭内で災害時の連絡方法、避難方法や避難場所を決めておくとともに、避難訓練を通じて、避難場所に家族で実際に行ってみるなど、一緒に体験しておくことが大切です。

東日本大震災から10年が経った今、改めて過去の大震災を振り返り、防災に関する正しい知識を身に付け、いつかやってくる、次の大震災に備えましょう。

▼若竹町通りを襲う津波



▼津波後の漁港道路の様子(若竹)



私たちができることはなにか

地震・津波はいつ、どこで起きるかわかりません。地震・津波が起きた時に、自分や周りの人々の命を守るためにはどうすればいいのかを正しく理解し、適切な行動をとることが大切です。

平成7年1月17日に発生した『阪神・淡路大震災』では、約6千人以上の死者・行方不明者を出し、死亡者の約8割が、家屋や家具の下敷きとなり、窒息死や圧死が原因との調査結果が出されています。

一方、東日本大震災では、死亡者の約9割が、津波による溺死が原因との調査結果が出されています。その中には、こ

こまでは津波が来ないだろうと考え、避難をしなかったり、一旦避難したにもかかわらず、津波到達までに自宅に戻り、津波に飲まれたケースもあります。これら過去の大規模災害を教訓に、地震・津波が起きた時に、私たちができることは何かがあるでしょうか。

【家の中の安全対策】

寝室や子ども部屋などには、できるだけ家具を置かないようにし、家具を置く場合はなるべく背の低い家具にするなど、転倒防止対策をしましょう。

また、家具が倒れてけがをしたり、出入り口をふさいだりしないように、家具の向きや配置を工夫するとともに、壁に固定するなどの対策をしておくことも大切です。

【身の安全の守り方】

地震はいつどこで発生するか分かりませんが、気象庁の『緊急地震速報』を活用することにより、強い揺れが来ることを事前に確認し、身の安全を守る行動をとることができます。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでは、数秒から数十秒のわずかな時間しかありません。すぐに周りの人に地震が来ることを知らせ、あわてず、適切な方法で、身の安全を確保することが大切です。たとえば、家の中では、座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる、街にいるときは、ブロック塀が倒れてきたり、割れた窓ガラスの破片が落下することがあるため、建物の